

ETHICA

エチカ

Contents 特集：杉並区長就任から3年目を迎えて

Vol.05

動き出そう！ みんなでつくるみんなのまち | 写真

参加型予算 | メンバー紹介 | 活動報告・区政報告 | 告知

DEC.2024



ソーシャル SOCIAL
サトコス SATOKOS

「ETHICA（エチカ）」は、岸本聡子後援会「ソーシャルサトコス」の会報誌です。

2024.12.SOCIAL SATOKOS

「ソーシャルサトコズ」の会報誌
「ETHICA」 Vol.05をお届けします。

杉並区長に就任して3年目を迎えました。
「みんなでつくる みんなの杉並」として、
対話の区政が進んでいます。

今号では、この2年間に実現してきたこと、
そして、この先に目指すことについて
岸本聡子の思いを紹介しています。

私たちはどんな暮らしを望むのか、
どんな地域にしたいのか、
どんなことに困っているのか――

そんなことをいっしょに考え、話し合い、
そしてアクションを起こしていく場として、
「ソーシャルサトコズ」が、
自治と民主主義を広げる
「ひろば」のような役割を担っていけたら
うれしいです。

※会報誌の名称「ETHICA（エチカ）」の由来：私たちはこれから
も希望を生み出すために支え合い、そこに生まれた「ETHICA＝
倫理」のもとにアクションを起こしていきたい、そんな思いから
名付けました。



岸本聡子が語る「区長就任から3年目を迎えて」

「対話のプロセス」をつくってきた2年間

3年目を迎えるにあたって、就任当時に提示した公約「さとかびジョン」が今年6月末時点でどこまで達成できたかという報告を公表しました。これは杉並区のホームページでご覧いただけます。この「さとかびジョン」は、もともと区長選のときに住民の方たちが共同でつくったものでした。それをベースに公約という形にして、区長就任後の早い段階で発表したのが約2年半前のことです。「性の多様性が尊重される条例」や「杉並区パートナーシップ制度」の実現、それから区立学校給食費の無償化（※1）、参加型予算制度のモデル実施、気候区民会議など、この2年の間に実現してきたものもありますし、低所得者を対象とした家賃助成制度のように、いままさに実現に向けて取り組んでいる最中のものもあります。

現時点での公約の達成率をどう見るかは人それぞれ違うかと思いますが、私自身は「さとかびジョン」の背景にある大きな考え方に基づいて、一つひとつのテーマを対話や検討のテーブルに載せようと努めてきましたし、これからもそうしていきます。

この2年の間には、住民との対話の場づくりも進めてきました。さまざまなテーマがありますが、そのなかには「聴くオフ ミーティング（区政を話し合う会）」、「さとかびプレスト（まちづくりの中で道路を考える対話集会）」、それから都市計画道路とまちづくりを行政と区民で考える「（仮称）デザイン会議」の設置、これからの阿佐谷北東と杉一小学校の未来を考える「あさがやまちづくりセッション」などがあります。

就任3年目を迎えたいま、あらためて実感しているのは、こうした「対話のプロセス」そのものが、やはり民主主義にとって非常に重要なのだということです。そのことは私だけでなく、こうしたプロセスに参画してくださっている住民の方たち、そして関わった行政職員の方たちも、同じように感じているとうれしいと思います。

※1 2024年度からは、国立・私立等の学校に通う児童・生徒のいる世帯に対して給食費相当額にあたる給付金を支給

岸本区政で実現した政策（一例）

- 学校給食の無償化
- 「性の多様性が尊重される条例」および「杉並区パートナーシップ制度」の実現
- 区民参加型予算制度の実施
- 気候区民会議の開催
- 会計年度任用職員の報酬額・待遇の改善
- 公契約条例の報酬下限値をアップ
- 光熱費の高騰対策助成金を実施
- 高齢者の補聴器購入費の助成実現

など

*詳しくはこちらをご覧ください。



「子どもの権利」を柱に、児童館の存続・拡充へ

とくに私にとって象徴的だった「対話のプロセス」の事例として、杉並区がこの1年以上にわたって進めてきた、「（仮称）杉並区子どもの権利に関する条例」の制定を見えた取り組みがあります。

この取り組みのなかで、公募した区民委員を含めた「杉並区子どもの権利擁護に関する審議会」を開催すると並行して、当事者である子どもたちからも意見を聴きました。具体的には、複数回にわたる子どもワークショップの実施、区立小中学校・特別支援学校・区内私立学校での意見交換会、子ども日本語教室での意見聴取などです。「子どもの権利擁護」を大きな柱にして、大人と子どもがともに学び、聴きとった子どもたちの意見を審議会に伝え、そこでの議論をまた子どもたちにフィードバックするというプロセスで丁寧に進めてきました。

取り組みの後半では、「（仮称）杉並区子どもの権利に関する条例」と同時に、2年前の区長選でも大きなテーマ

となった「子どもの居場所」についての議論が行われました。杉並区ではコロナ禍の前後で比べて不登校児が2倍になったという状況もあり、議論のなかでも学校のなかに居場所をつくるだけでなくサードプレイス（第三の場所）が必要であること、そして子どもたちが自分の意思で行ける場所としての児童館の意義が再認識されていたと感じています。

こうしたプロセスを踏まえて、今年9月から始まった第3回定例会では「子どもの居場所づくり基本方針（素案）」を提出しました。そのなかで、中学校区に児童館のない7地域で新たに0～18歳の子どもが利用できる児童館の整備を検討することが示されています。もちろん、いまある児童館も存続したうえで機能のアップデートを図っていきます。児童館以外にも子どもの居場所を広く捉え、行政だけでなくさまざまな主体が協働して、多様な居場所を各地域でつくっていくという大きな方針を出しました。

ご存じの通り、私は「児童館再編の見直し」を公約に掲げて区長に就任しましたが、2地域の児童館については、



もう引き返すことができないという判断のもと廃止に至りました。「これ以上児童館をつぶさないで」という背景には、やはり子どもの権利に基づいた子どもの居場所が大切であるという住民の方々の気持ちがあったと思います。今回あらためて住民や当事者である子どもたちと意見交換を行い、「子どもの権利」をひとつの重要な柱として、児童館の拡充を含めた行政機関としての「子どもの居場所づくり基本方針（素案）」を新たに出すことができたのは、私にとっても大きな成果のひとつだと感じています。

地域課題を区と住民が ともに学び、考える

区長として実際に行政組織のなかに入ってみて、ひとつの政策を実現するまでには、いろいろな角度からの議論や効果の検証、そして議会の理解を経て、必要なものは計画や方針に組み込んで予算の裏付けをつくるなど、時間をかけた手続きが必要だということを学びました。加えて、基礎自治体は国や東京都が打ち出す方針にも対応

していかななくてはなりません。

でも、住民にはこうした行政組織の事情はわかりにくいものですね。だからこそ行政は、住民とのコミュニケーションにもっと尽力しなければいけないと思います。条例や計画、方針や予算といったものをつくるときに、住民の人たちが関わる機会というのは、これまでパブリックコメント（パブコメ）や説明会といった形しかありませんでした。でも、そもそもパブコメを集める時点では計画はほとんどできていて、さまざまな調整も経ているので、いまさら大きな変更はできなかったりするわけです。こうしたやり方では、住民の意見は反映されにくく、結果として区政に対する無力感や不信感を招いてしまいます。

こうした仕組みを変えていこうと、計画を立てる最初の過程において、当事者を含めて広く住民に開かれたやりとりの場をつくろうとしている例が、「区立施設マネジメント計画」です。

いま杉並区内におよそ600カ所ある区立施設は、多くが高度経済成長期に建てられたもので、老朽化した施設をどう更新していくのが課題となっています。杉並区では、

2014年に「杉並区立施設再編整備計画」を策定しましたが、区民の皆さんの意見が反映されにくく、住民自治を育んでいくという視点も不足していたと感じています。

そこで、「区立施設マネジメント計画」と名前を変え、施設再編案の検討段階から、施設利用者や地域のことを一番よく知る住民の方たちと行政が課題を共有し、話し合い、ともに案を検討する形で再出発しました。

公共施設は大切なみんなの財産です。多くの人に使われて初めて価値が生まれます。「維持費がかかるから減らそう」「利用者が少ないから廃止しよう」という発想ではなく、「みんなにとって魅力的な開かれた公共空間をどうつくるのか」という、まちづくりを含めた議論にしていきたいのです。

そのためには、いま公共施設を使っている人だけではなくて、むしろ使っていない人にも参画してもらうことが

大切です。そこで無作為抽出の方法で、参加する住民を選んで3地域で試験的にそれぞれ計5回のワークショップを開催しました。地域ごとに「西宮中学校の改築と老朽化した周辺施設の更新等に関する検討」「高井戸東保育園・ゆうゆう高井戸東館の老朽化への対応」といったテーマを定め、区と住民がともに学び、対話しながら、「何を大切にしたいのか」を話し合っ

てプランを検討していく試みです。最終的には、そこでの意見を踏まえて行政が計画案をまとめ、責任を持って決定をしていきます。私も浜田山地域でのワークショップ最終回に参加しましたが、すごく印象的だったのは、最後にみんなが車座になって意見を言うていくときに、「自分の考えを変えたわけではないけれども、いろいろな人がいて、いろいろな考えがあることがわかった。そういう別の視点からも考えてみようと思った」というコメントが多かったこと。これ



こそが、みんなで話し合っていく価値だと感じます。住民一人ひとり、立場や考え方も違うのが当然で、すべての人が100%満足できるような計画や方針はないかもしれません。それでも、こうした対話のプロセスを経てできた案であれば自信を持って示すことができる。私が大切だと思うのは、やり方なんです。

行政側が「いろいろ検討したうえで、これが一番効率的で合理的です」と一方的に計画をつくって説明する方法は効率的かもしれないけれど、住民の納得は得にくいでしょうし、杉並区の自治基本条例にも反しています。行政と区民が一緒に考えていく場をつくることは、その後に立てられる計画に命を吹き込むと思うし、担当する行政職員にとっても「自分たちは、こうした当事者たちのために、この社会のために、計画をつくっているんだ」

と実感できることは大切です。このように、行政と住民のさまざまなチャンネルを地域社会のなかに増やしていく作業を続けてきた2年間だったとも思います。

これからの2年間—— エンパワーし合える場を

7月に区長就任から3年目を迎えたわけですが、この2年間に学んだことを生かして、これからの2年間も誠実に取り組んでいきたいと思っています。

先ほど1年間をかけてさまざまな方たちと一緒に「(仮称)杉並区子どもの権利に関する条例」の制定に向けて取り組みを進めてきた話をしましたが、こうした方法で条例をつくっていくと、その過程で「子どもの権利をしまっ



りと守っていこう」という地域のプレイヤーが育っていくことを感じました。これから杉並区では、ジェンダー平等の条例をつくることを視野に審議会の設置が決まりました。ただ素晴らしい条文をつくることだけを目的にするのではなくて、審議会での議論が進み、条例をつくるプロセスを通じて地域の人たちが、いまこそジェンダー平等をどう実現していくかを考えるなかで、その過程そのものが多くの人をエンパワーすることを目指したいです。

あと2年の間に取り組みたいことはいくつもあります。区内に住む60歳以上の方を対象にした公共施設「ゆうゆう館」をどうするのかということも、これから議論していかなければいけない大事なテーマです。どうしても「ゆうゆう館を廃止するのかしないのか」「複合施設にするのかしないのか」といった議論になりがちなのですが、公共施設のことだけでなく、高齢者が外出したくなるような地域のあり方、子どもから高齢者までみんながまんなかの共生社会をどうつくるのかということも含めて、子どもの権利に関する条例と同じく、大きな理念をしっかりと描いていく必要があると思っています。また、環境問題や気候変動の対策と、防災・減災をつなげる取り組みも進めていきたいことのひとつです。環境を守ることは、私たちの命を守ることに繋がります。杉並区では増加する豪雨による被害を緩和するために、自然の持つ多様な機能を利用した「グリーンインフラ」によって、雨水を貯める・しみこませるといった流域対策を区民参画で進めています。これは長期的なスパンで取り組む必要があります。

これまでも区議会終了後には駅頭で「区政報告街宣」をしてきましたが、そのほかにも月2回の朝街宣、SNS（インスタグラム）での発信などを行いながら、これまで私の活動に関心がなかった方たちにも、少しでも区の取り組みを知ってもらう機会をつくりたいと思っています。誠実に区民に向き合うこと、そして自分の言葉で伝えていく努力を、いままで以上にしていきたいと思います。

ソーシャルサトコズの会員へのメッセージ

全国の皆さんとともに、民主主義と自治を取り戻す

ソーシャルサトコズには、杉並区民に限らず、全国さまざまな地域の方が参加してくださっています。2022年の杉並区長選のあとも、各地でたくさんの選挙が行われてきました。とても嬉しいことに、「立候補者はまだ決まっていないけれど、杉並区のように自分たちの運動から立候補者を出したいと思っているんです」という声をいただきます。このソーシャルサトコズをひとつのプラットフォームとして、杉並区でのチャレンジを、面白さも苦しさも含めて共有していきたい。それを各地の力にしてほしいし、みんなで応援していきたいと思っています。皆さんが、それぞれの地域で選挙の戦い方を練っていくことは、地域課題に取り組むことにもなり、地方自治を取り戻すことにもつながります。全国各地にそうした動きを広げ、可視化していくことで現状に風穴を明け、民主主義や住民参画を実現させていきましょう。

動き出そう！ みんなでつくるみんなのまち
ソーシャルサトコズの活動もパワーアップ！

2022年11月の発足以来、ソーシャルサトコズの活動も2年となりました。任期の折り返し地点を迎える今年の夏は、2周年イベント、大判チラシの制作・ポスティング、街宣などこれまで以上に活動量もパワーアップ！
新たな仲間も増え、地域で楽しく動いています。ぜひ皆さんもご参加ください。



2周年イベントでは住民や区議会議員からの報告、参加型のグループトークで盛り上がりました

2周年イベント

2024年7月13日、岸本区政2周年イベントを荻窪にて行いました。イベント前には荻窪駅にて街宣も実施。イベントには区内・区外から約150名が参加し、岸本聡子の報告の後、区政の課題や今後の活動についてグループに分かれて議論する参加型ワークショップを行いました。「職員の対応が変わったことを実感する」「みんなが地元の主人公となるような活動をしたい」などたくさんの意見が共有されました。



ボランティアLINEに登録しよう！
ソーシャルサトコズでは6月より「ボランティアLINEグループ」を運営しています。現在、約50名の方が登録くださり、街宣やチラシ配布などの呼びかけや情報共有を行っています。会員の方はどなたでも参加可能です。


登録はこちらから

岸本区政2年の成果をまとめた大判チラシ大作戦！

就任から2年で達成できたことを区民にわかりやすく伝える大判チラシを11万部制作し、5万部を新聞折り込み、6万部をボランティアの皆さんで区内にポスティングしました。猛暑のなか、のべ50名以上の方が協力くださり、約2か月で6万部を配布し終わることができました。配布地域が重ならないよう配布した地域を記録・共有したり、配布ができていない地域にみんなで出かけ配布する「ポスティング祭り」も行うなど、皆さんのアイデアを活かしながら楽しく進めています。



2年の成果をまとめた大判チラシ



岸本聡子事務所でボランティアさんが大判チラシの配布準備作業



岸本聡子もチラシ折り作業に参加！



区内各駅にて街宣＆チラシを配布。どの駅でも大変好評です



ポスティング祭りに向けた作戦会議



ポスティングの達人ボランティアの方から教わり、配布地域を綿密に割り振りました



サトコズボランティアの皆さん。どの駅にもたくさんご参加、ありがとうございます！

今後、大判チラシは年2回（4月、9月）制作し、区内全域での配布を目指します。ぜひ配布にご協力ください！
また、チラシの制作に関して、会員の皆様から多くのご寄付をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

岸本聡子の活動・発信も
バージョンアップ！

区長就任2年を迎え、公務はもちろん岸本聡子の日々の政治活動もさらに充実させてきました。地域の皆さんとできる限り直接の対話と交流をする「区政報告会」や「朝街宣」に加え、SNSの発信も強化しています。ぜひご参加・フォローなどよろしくお願いいたします。

会える区長、会いたい区長を目指して！
朝街宣「さとこMONDAY」

毎月2回、月曜日の朝(7:45～8:15頃)に区内各駅での街宣を行っています。これまで、荻窪駅、新高円寺駅、高井戸駅、浜田山駅、方南町駅などで実施しました。JR線沿線に偏りがちな街宣ですが、井の頭線、西武線、丸ノ内線などでも行います。「この人が区長さんだったの」「近くにきてくれてうれしい」など、どの駅でも応援の声をいただいています。通学途中の子どもや学生さんが声をかけてくれることも。これからも区内すみずみまで参ります！



会員交流企画「ブラさとこ」

ソーシャルサトコズ会員と岸本聡子が杉並の各所をお散歩し、地域の課題や文化を知る楽しい企画が「ブラさとこ」です。これまで、和田堀公園でのお花見や荻窪地域の散策などを行いました。今年6月には西荻窪の町を歩きました。西荻地域では東京都の事業である「善福寺川上流調節池（仮称）」の計画が進んでおり、住民の皆さんは不安の声をあげています。立ち退き当事者となる方や、事業によって小さくなる関根文化公園近隣の保護者の方にもお話をお聞きました。

区政報告会「近所でさとこ」

年4回ある定例区議会の間に、杉並区内の各地域で区政報告会を行っています。2024年3月は西荻窪にて、4月是高円寺と井草で開催しました。秋は高井戸と方南町で開催しました。報告会の前には駅頭での街宣や商店街の練り歩きも行っています。今後も皆さんの地元にかがいます！



インスタで毎週金曜日発信中！
「さとことFRIDAY」

2024年5月から、X（旧Twitter）やFacebookに加え、インスタグラムでの発信を開始しました。「さとことFRIDAY」と題し、毎週金曜日に岸本聡子からのメッセージをお届けしています。区政で進んでいること、地域の課題など、いま皆さんにお伝えしたいことを中心にさまざまなトピックで岸本聡子がお話するショート動画です。



区民から広く意見を聴き、あたらしい公園のルールを試行していることをお知らせしました

ぜひインスタグラムを
フォローしてください！



@SATOKO_KISHIMOTO

東京都知事選挙を振り返り、選挙と選挙の間の民主主義をつくろうと呼びかけました

民主主義にとって「対話のプロセス」は非常に重要



行政と区民が一緒に考えていく場をつくる

子どもの権利に基づいた子どもの居場所を



住民一人ひとり、立場や考え方も違うのが当然



みんなが「まんなか」の共生社会



条例をつくるプロセスのなかで、多くの人をエンパワーする



これからの2年間も誠実に向き合っていきたい

「さ と こ ビ ジ ョ ン」を知るためのキーワード

参加型予算

昨年度、杉並区の「参加型予算」で実施が決まった区民提案「歩行者が気軽に利用できる木製ベンチをまちなかに広めよう」。区民参加型事業の第1号となる木製ベンチをご自宅前に設置した田淵ご夫妻にお話を伺いました。

田淵さんインタビュー ● 幸一郎さん ● 千夏さん

市民が声をあげる杉並区に住めるのはうれしい

——ソーシャルサトコズの会員でもある田淵ご夫妻には、大判チラシを折る作業やポスティングでよくお会いしています。いつもありがとうございます。おふたりは杉並区に住み始めてどのくらいなのでしょう。

- 私はもともと宮前の出身なので、杉並区には馴染みがあります。社会人になってから杉並区を離れ、医師としてザンビアやカンボジアなど世界各地で働いてきました。岸本さんが区長になってから家族全員で杉並区に戻り、家を建ててからおよそ2年が経ちます。
- 岸本さんの選挙には直接関わることはできませんでしたが、SNSを通じて杉並区民が力を合わせて声をあげる姿を見ていました。そんな活気ある杉並区に住めるのは本当にうれしいです。今年7月に岸本区政2周年イベントがあったことをあとから知り、「私も、私ができることをしよう」と思い、ソーシャルサトコズに入会しました。

——ザンビアやカンボジア、しかもご家族全員で！ 選挙の様子も見えていらっしゃるんですね。もっと詳しくお聞きしたいのですが、本題に進めましょうか。

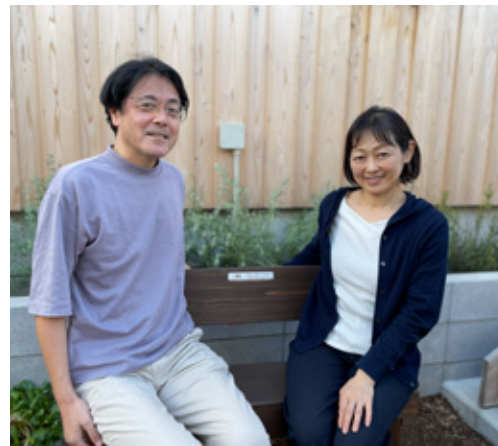
区の広報で知って、すぐに応募したら第一号でした

——今回、区民参加型事業に参加されたきっかけを教えてください。

- 区の広報でこの事業を知り、すぐに応募したところ、なんと第1号で驚きました。今後自宅の一階を診療所にする予定があり、誰でも自由に休めるベンチがあると良いなと思ったのが応募の理由です。ベンチに座って休まっている方をまだ直接は見かけていないのですが、この酷暑の中、ご高齢の方が道端に座り込んでいるのを何度か見かけて、「よければこのベンチで休んでください」とご案内しています。
- 区からいただいたプレートが控えめなデザインなので、もう少し大きくて目立つものにすると道行く方の目に留まりやすくなるのかも。どなたでも気軽に休める場所になったらいいなと思っています。

みんなにやさしいまちにしていきたい

- このごろ、お金を払わないと座る場所もないような街が増えていますよね。買い物の行き帰りとか、ちょっと休みたかった時に座れる場所がたくさんある街の方がいいなと思います。
- 住民自治が薄れていると感じます。最近だと杉並区では住民の声を反映して、夏の間だけ少人数なら手持ち花火が許可されるように公園のルールを変更しましたよね。
- 住民の声を聴きたい取り組みですよ。あれもこれも禁止にするのではなく、住民の視点に立ったまちづくりが進んでいくといいなと思います。みんなにやさしいまちにしていきたいです。



杉並区の「参加型予算」って？

杉並区の「参加型予算」は、区民の意見を予算編成に反映させる仕組みです。区が設定したテーマに対し、区民が予算の使い道を提案。その後、区民による投票で事業案を決定し、区議会で議決され実施されます。2023年度からモデル事業として導入され、区民の声を区政に反映し、身近に感じてもらうことを目的としています。2024年度は、防災・減災分野の取り組みについて区民等の皆さんから頂いた提案のうち、区で内容を確認し作り上げた10事業について、区民の皆さんによる「投票」を実施しました。

「ソシアルサトコズ」のメンバー紹介

全国の会員の皆さんを毎号紹介していきます。



いち き とも こ
一木 朋子さん

東京女子大学で学び西荻窪に6年間在住。卒業後は地元・九州の新聞社に16年間勤め、2019年より転職で上京し2年間西荻窪で暮らす。現在は文京区在住。

Q：入会したきっかけ

A：区内在住の友人に勧められ、映画『〇月〇日、区長になる女。』を観たり、本を読んだりしたことがきっかけです。応援したいという気持ちと、「自分たちのことは自分たちで決めよう」と動く杉並区から新しいことが始まりそうだという好奇心から入会しました。

Q：ソーシャルサトコズでやりたいこと

A：区外在住ですが、どの場所からでも地域のために動くことはできると思います。住民自治の意識を持ち、自分ごととして草の根でできることに取り組んでいきたいです。また、新しい民主主義のあり方を追求する杉並区の動きが、もっと全国に広がることを願っています。



なかむら すず か
中村 涼夏さん

2001年鹿児島県生まれ。現在、環境NGOで勤務。立候補年齢引き下げ訴訟の原告。訴訟の詳細については「立候補年齢引き下げ」で検索。

Q：入会したきっかけ

A：岸本さんが区長になったことをきっかけに、杉並区に引越してきました。区民とともに杉並区を変えていこうとする、身近な存在である岸本さんを一市民として応援したいという気持ちから入会しました。政治家の後援会に入るのは今回が初めてです。

Q：ソーシャルサトコズでやりたいこと

A：ソーシャルサトコズの会員の皆さんが、それぞれの地域でどのような課題に取り組んでいるのかに興味があり、もっと話を聞きたいです。また、選挙と選挙の間の期間に私たちができることや、応援の方法を考える作戦会議も開いてみたいです。



きた だ た き
北田 多喜さん

奈良県在住。2019年よりODA事業でインドネシア地方政府や国に無作為抽出で選ばれた住民が行政事業評価をする取り組みを紹介し活用してもらう活動を行っている。

Q：入会したきっかけ

A：無作為抽出によって選ばれた住民が行政事業評価をする日本の取り組みをインドネシアに広めるプロジェクトに関わっており、日本での研修プログラムで岸本さんへの表敬訪問をお願いしたのがきっかけです。区外からの関わりも可能だと感じ、参加することにしました。

Q：ソーシャルサトコズでやりたいこと

A：インドネシアでの住民参加の取り組みは、村や市などの地域レベルで始まり、国全体に広がろうとしています。ミューニシパリズム的に広がる動きを日本に知らせていきたいです。住民の声を聴く政治を進める現地の首長たちと、日本の行政との交流にも取り組んでみたいです。



ゆ い えい た ろ う
由井 宮太郎さん

高円寺在住。「高円寺びっくり大道芸」や市民劇団「演劇なかま高円寺」「こども食堂」など高円寺の町が豊かになるプロジェクトを次々と手がけている。

Q：入会したきっかけ

A：ウクライナ避難者応援募金活動の報告を区長当選直後の岸本さんに手渡ししたり、長寿のお祝いでお母と一緒に祝うなど、地域の現場で立て続けに岸本さんと接する機会がありました。これもご縁と思い、この先長く頑張ってもらうためにも、応援することを決めました。

Q：ソーシャルサトコズでやりたいこと

A：杉並区の魅力といえば、商店街。杉並区の商店街には、個性豊かな個人商店がいきいきと集っています。区長や行政に任せるだけでなく、住民一人ひとりが商店街の活性化に向けて一丸となって取り組むことを目指したいと思っています。

岸本区政3年目で進む政策

9月10日から10月16日まで行われた杉並区議会第3回定例会では、岸本区政初の本格予算となった2023年度杉並区一般会計等の決算審査が行われました。あわせて3年目を迎えた岸本区政でのさまざまな政策が進んでいます。

ジェンダー平等審議会の設置へ

今回の区議会には、一般会計補正予算案（総額95億864万円）が提出され、可決されました。

補正予算案には、ジェンダー平等を進める条例制定などを視野に、区民や有識者で構成する「杉並区ジェンダー平等に関する審議会」を設置する費用も盛り込まれました。

民間企業で働く人の平均給与は過去最高になりましたが、男女の格差は4年連続で拡大しています。また、女性の家事・育児の時間は男性の3.9倍以上と、日本のジェンダー不平等は際立っています。これを解決するため、国の施策が重要なことはもちろんですが、自治体や地域社会の中でも多くのことが実行可能です。今回の審議会は、杉並区のジェンダー平等条例の制定を視野に入れたもので、区が本気でジェンダー平等社会の実現に取り組む決意を示したものとと言えます。

審議会は区長の附属機関とし、公募区民、団体関係者、学識関係者など12人以内で構成し、来年秋頃までの審議を予定します。これまでも性の多様性条例の制定、パートナーシップ制度の創設、学校や区立施設トイレへの生理用品の配置、区役所におけるハラスメントゼロ宣言など、岸本区政のもとでジェンダー平等の取り組みが前進しています。

子どもの居場所づくりへ大きな一歩
25の児童館を残し、7地域では新たに増設

杉並区議会にて、「杉並区子どもの居場所づくり方針（素案）」を報告しました。子どもが選択可能な多様な居場所づくり等を理念に、今ある25の児童館をすべて残し、機能と役割を強化すること、また児童館がない7地域には新たな児童館の整備を検討する等の内容です。



2024年7月、ジェンダー平等や性の多様性を進めるため活動する女性たちと

杉並区では前区政にて児童館の全館廃止方針が出され、2013年に41館あった児童館が、2024年には25館にまで減少しました。児童館が廃止された地域では、子どもの居場所の減少や地域コミュニティの喪失など、さまざまな問題が発生していました。

子どもの居場所づくり基本方針（素案）では、子ども自身が選択可能な多様な居場所をつくっていくこと、子どもの視点にたって子どもの声を反映して取り組みを

進めることを大きな理念としています。この方針策定の中でもっとも力を注いだのは、当事者である子どもたち自身から居場所について意見や考えを聞き、ともに話し合うことでした。検討プロセスでは2年かけて当事者である子どもの意見を聴き（子どもワークショップ



子どもワークショップで出された意見



←詳細はこちら
素案については今後「案」となり、パブリックコメントが行われます

公園での花火のルールが変わりました

2024年7月から、杉並区は公園での花火の使用などの公園使用の新たなルールの試行を始めました。区は2024年1月、公園の利用に関するアンケートを実施。幅広い年代の約290人から意見が集まりました。また児童館にもアンケートを配布して小学生ら約670人からも回答を得ました。都市部では子どもが遊べる場所は限られていることから、子ども自身の意見を聞いていこうという主旨です。

花火の使用については、これまでは申請した団体などに限られていました。家族で「今日、花火をやろうよ」ということができず、アンケートでも条件緩和を求める声が多くありました。新ルールでは、夏季の夜間に家族単位など少人数であれば申請不要で手持ち花火で遊ぶことができるようになりました。区内39公園が対象で、対象時間内には区による見回りを強化し、マナー

等も開催）、地域住民や関係者とも意見交換を重ね、方針策定に取り組んできました。

この取り組みは、「（仮称）子どもの権利に関する条例」制定の準備とともに進んでいます。



子どもの権利擁護に関する審議会会長の野村武司先生と

遵守を促します。

また、ボール使用の基本ルールについても「不可」から「条件付き可」に変更しました。小学校低学年までの柔らかいボールの使用（※従来は幼児まで）や、広場で一人で行うボールを使った練習などが可能となりました。

近年、公園での禁止事項が増え、子どもも大人もののびと過ごせないという声も少なくありません。管理が強化されることで住民の自治が弱まる場合もあります。一見、小さな事柄に見える花火やボール遊びルールの緩和ですが、公共空間での自由と自治を考える一歩ではないでしょうか。

★杉並区ホームページ「新しい公園利用ルールの試行」。試行期間は来年3月まで。その後再度のアンケート結果をもとに検討します。



アーバンスポーツの促進に向けて

不燃ごみの積み替え施設として2009年まで使われてきた旧杉並中継所について、防災拠点としての活用が決まったことを受け、平時は地下部分をアーバンスポーツ施設として活用することを候補のひとつとして検討を始めます。補正予算に約384万円を計上しました。スケートボードやBMX（自転車競技）、スポーツクライミングなどを想定。これらは五輪競技となったことで、最近若者を中心に人気が高まっています。もともと

と広い場所を必要とせず個人が気軽に始められるなどの理由で、都市住民が参加しやすいスポーツです。一方、先行して同種の施設を整備した自治体では、騒音や利用者マナーなどの課題も上がっていることから、区長として「課題整理や解決策の検討を行い、施設整備に向けた住民との合意形成を進めていきたい」との考えを示しました。補正予算には他に、大地震に備えて最新版の「防災マップ」を全戸配布する費用など約1263万円を計上しました。

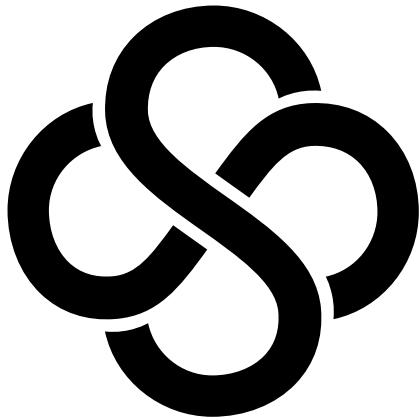
衆議院議員選挙にて吉田はるみさんを応援しました

10月27日に行われた衆議院議員選挙にて、岸本聡子は区内の選挙区（東京8区）にて現職の吉田はるみさんを区民とともに応援しました。吉田はるみさんは2021年10月の衆議院議員選挙で初当選し、先の立憲民主党代表選挙では新人・女性議員として立候補されました。杉並区では、2021年の吉田さんの当選後に行われた区長選挙、そして2023年の区議選のいずれにおいても投票率が上がり、女性区長の誕生、男女同数のパリティ議会を実現してきました。まさに吉田さんの当選が「新しい政治の景色」のスタートだったと言えます。今回の衆議院議員選挙では、裏金問題などカネと政治の問題が大きな争点になりましたが、生活者の目線で見れば、物価高騰などによる生活不安や雇用、ケア労働者の待遇改善、教育費・子育て費用の負担などさまざまな論点もありました。岸本聡子は応援演説にて、「ケアする人をケアする社会へ」「国の政策を変えるため自治体から働きかけること」「ジェンダー平等を地域から」と訴えました。幅広い区民の応援もあり、吉田さんは衆議院議員選挙に無事当選。投票率の全国平均は53.85%と前回よりも低かったのは残念でしたが、東京8区では60.04%と23区の中で3番目に高い投票率でした。



10月25日、阿佐ヶ谷駅での応援演説

「ソーシャルサトコズ」の意味すること



ソ シ ア ル サ ト コ ズ SOCIAL SATOKOS

2022年11月、岸本聡子後援会として「ソーシャルサトコズ」は活動を開始しました。

ソーシャルとは「社会的」という意味ですが、そこには信頼や共感、助け合いという価値も含まれています。また、ソーシャルには「みんなで」という意味もあります。

ロゴマークは、さまざまな“S”が折り重なって融合し、動き出すことをイメージしています。SatokoのS、SuginamiのS、SocialのS、SustainableのS……皆さんも好きな“S”を足してみてください。

現在、ソーシャルサトコズの会員は615人（2024年10月31日現在）。杉並区内はもちろん、全国から会員になってくださった皆さんにあらためて御礼申し上げます。

皆さんの力を最大限に発揮しながら動き続け、進化していきましょう。

事務局では会報誌の発行のほかイベント、報告会開催などを企画しております。ぜひさまざまなアイデアやご意見をお寄せください。

『杉並は止まらない』岸本聡子 著

地平社 本体1600円＋税

11月12日 新刊発行！

岸本区政の2年間で何が進んだのか、これからどのような区政を実現したいのか——？その取り組みと意思をまとめました。2年間で達成できたことはまだ少なく、新たな課題も多くある中で出版することにためらいもありましたが、杉並で起こっている「政治の新しい景色」を多くの方に伝えたいとの思いがぎっしり込められています。ぜひお読みください。



ローカルイニシアティブネットワーク（LIN-Net）へのお誘い

2022年に立ち上がった、自治体首長・議員・市民によるゆるやかな政策ネットワーク「LIN-Net」は、11月3日に小田原市で第8回目のイベントを行いました。小田原市では今年5月、市民の力強い運動によって加藤憲一市長が当選しました。その取り組みの報告や、加藤市長のめざす「持続可能な市民自治のまちをつくる」という実践について話し合いました。岸本聡子もシンポジウムに登壇し、杉並区での取り組みを報告しました。LIN-Netは全国の自治体議員・市民の皆さんの参加を呼びかけています。「イベントに参加する」「賛同する」「寄付をする」などの参加方法があります。全国各地の皆さんとつながることを期待しています！



右から神奈川県二宮町長・村田邦子さん、小田原市長・加藤憲一さん、東京都世田谷区長・保坂展人さん、岸本聡子



ご寄付・会員拡大のお願い

岸本聡子の政治活動は、皆様の「寄付」と「会費」のみに支えられています。住民が主役の政治を実現するためにも、ぜひご寄付をお願いいたします。また友人・知人の方に入会を呼びかけてください！

【ご寄付のお振込み先】

西京信用金庫 阿佐谷支店 普通 3164033 岸本聡子後援会 代表 岸本聡子
ゆうちょ銀行 【店名】一三八 普通 2184759 岸本聡子後援会

※お振込みの前に必ず下記ウェブサイトのご寄付受付フォームからご連絡ください。

※個人でのご寄付をお願いいたします。

※日本国籍を有する方のみが寄付をすることができます。

※年間5万円を超える寄付については、収支報告書に「寄付年月日、金額、氏名、住所、職業」が公表されます。

詳しくは <https://www.kishimotosatoko.net/kouenkai>



公式サイト

<https://www.kishimotosatoko.net/>


Twitter

[@satokokishi2022](https://twitter.com/satokokishi2022)


Facebook

[kishimotosatokosuginami](https://www.facebook.com/kishimotosatokosuginami)